

【部会・分科会活動報告】 2018年1,2月度

食 品 安 全 研 究 会	食品微生物研究部会	<p>1. 分科会活動</p> <p>(1) 芽胞菌研究分科会</p> <ul style="list-style-type: none"> 2018年の予定として飲料原料微生物検査法の展開と告知、学術発表、芽法形成条件のデータベース化等を検討している。 <p>(2) MALDI-TOF MS 研究分科会</p> <ul style="list-style-type: none"> カビ分析のスタンダードプロトコル作成に関して、2月20日に第4回会議を実施。次回は2018年6月に島津製作所様にて、NITEが開発した糸状菌 (<i>Aspergillus</i>) の分析法やノウハウについて、実技を含めた勉強会を開催予定。 <p>(3) チルド勉強会</p> <ul style="list-style-type: none"> 海外ガイドラインの読み合わせを中心とした勉強会の開催を計画中。 <p>(4) 検査法標準化プロジェクト</p> <ul style="list-style-type: none"> 今期よりキックオフ。参画メンバーで参集し、今後の方向性について議論予定。 <p>(5) NGS プロジェクト</p> <ul style="list-style-type: none"> 3/1 締め切りで最終原稿調整中。確定後、速やかに投稿される。 <p>2. 2018年度第1回部会全体会議を実施 (2/28) ニチレイ東銀座ビルで開催し、34名参加。</p> <ul style="list-style-type: none"> 2017年12/15 実施の公開シンポジウム総括 各分科会活動の進捗報告 ILSI 本部総会参加報告 勉強会：「DNA/RNA シークエンス用ポータブルデバイス MinION の技術と今後の展開について」オックスフォード・ナノポアテクノロジーズ社の宮本真理様にご講演いただいた。
	食品リスク研究部会	<p>1. ワーキンググループ活動</p> <ul style="list-style-type: none"> 食品リスク評価新技術勉強会 (WG2) : ① ILSI Europe との動物実験代替推進に向けた協働について JaCVAM 運営委員会にて協力を要請、国衛研として協力いただけることとなった。② リードアクロスについて独立行政法人製品評価技術基盤機構 (NITE) と 5/18 に意見交換会を実施することとなった。 食品リスク評価課題解決 (WG3) : 高齢者を考慮した食品の安全性評価に関わる課題について議論、整理継続中。 <p>2. 次回部会開催予定 日時：2018年4月27日 13:30-15:00 場所：協和発酵バイオ東京支店バイオ専用第3会議室</p> <p>3. 勉強会開催予定 演題：化学物質の有害性評価のための in silico 評価技術の現状と活用推進へ向けた課題 講師：国立医薬品食品衛生研究所、山田隆志先生 日時：2018年4月27日 15:00-17:00 場所：協和発酵バイオ東京支店バイオ専用第3会議室</p>
	香料研究部会	
バイオテクノロジー研究会	<p>1. 2018年度 第1回目会議を2月21日に開催</p> <p>(1) 新幹事会役割の確認、ILSI 行動規範等の確認： 年度初のため各種役割、ILSI 行動規範等の再確認を行った。</p>	

		<p>(2) ERA プロジェクト調査報告 第37号の勉強会： <ul style="list-style-type: none"> ・ 10報の論文をレビューし、意見交換を行った。 </p> <p>(3) GM 微生物食品について： <ul style="list-style-type: none"> ・ 進捗報告なし。 </p> <p>(4) GM 作物について： <ul style="list-style-type: none"> ・ 生物多様性影響評価に関する勉強会についての準備の現況報告が行われた。開催は4月25日に決定した。 ・ 2017年12月15日の「遺伝子組換え食品等の安全性評価における次世代シークエンサーの活用に関する勉強会」開催結果報告がなされ、今後の「イルシー」誌等への投稿について議論された（今後継続検討）。 ・ ERA 報告書に長年ご尽力頂いている林先生に、これまでのERAの歴史を整理することを目的に「日本におけるGM作物のERAの歴史」のご執筆を依頼することが提案され、可決された（今後継続検討）。 </p> <p>(5) その他情報共有化 「農林水産業イノベーションシンポジウム」 （3月20日農林水産省農林水産技術会議事務局研究企画課技術安全室主催）</p>
栄養健康研究会	栄養研究部会	<p>1. 第9回ライフサイエンスシンポジウム開催に向けて <ul style="list-style-type: none"> ・ 案内状の案を作成（2018/2/15）。 ・ ILSI Japan 総会において、事務局長より、下記のシンポジウム開催を案内（2018/2/19）。 『第9回ライフサイエンスシンポジウム』 「健康長寿の延伸につなげる栄養科学と運動科学の融合—基礎研究から応用研究まで—」 <ul style="list-style-type: none"> ・ 開催日：2018年7月26日（木）（終日） ・ 場所：東京大学弥生講堂・一条ホール </p> <p>2. シンポジウムのプロモーションについて <ul style="list-style-type: none"> ・ 本シンポジウムの聴講が、日本栄養士会の「生涯教育制度」、日本臨床栄養協会の「NR・サプリメントアドバイザー」の研修単位に認定されるように、両会に対して、単位認定のための申請手続きを開始（2018/2/15）（認定されると、本シンポジウムの開催が両会を経由して、広く案内できるため）。 ・ ILSI Japan ホームページでの、本シンポジウムの申し込みサイトの作成を開始。 </p>
	GRプロジェクト	<p>第3回多施設試験追試 第3回多施設試験追試意見交換会（1/24 於 ILSI Japan 会議室）</p>
	茶類研究部会・茶情報分科会	
食品機能性研究会		
	寄付講座 「機能性食品ゲノミクス」	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第Ⅲ期寄付講座（2013年12月開始、5年間）研究進行中。
健康な食事研	ワーキンググループ1 (WG1) 科学的エビデンスに基づく日本人にとっての健康な食事の概念構築	<p>第5回会合（1/12）東京大学佐々木研究室 日本食の論文調査から、「Japanese Food」を読み解く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ メンバーをA/Bに分けて283論文（PubMed）を確認、グループ間で80報程度の相違があり、その点を中心に議論した。 ・ 議論の展開を題材に、佐々木先生から疫学の基本と論文の評価手法を教授いただいた。

研究会		<p>第6回会合 (2/13) 東京大学佐々木研究室 日本食の定義を探る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・283論文から146論文を抽出、日本食の定義の有無と試験分類を調査した結果、オーソライズされた明確な「日本食」の定義は無いとの結論を得た。 <p>今後の予定 各論文内での「日本食」の定義について、4基準で分類し、今年度報告書“Studies on Japanese Diet の研究動向”として取りまとめる (3月開催予定)。</p>
	ワーキンググループ2 (WG2) 外食・中食・給食の実態把握	<p>会合 (1/29) ILSI Japan 会議室 ラウンドテーブルまとめからの共通認識。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康メニューと消費者意識のギャップが存在。健康を前面に出した食事・メニューは売れないが、消費者は健康を意識している。 ・企業のコンセプトが違う、あるいは消費者の意識変容を促す必要があるのかもしれない。 ・各業界の加盟団体や業務構造は想像以上に複雑である。 ・企業の拠り所としての指針、ガイドラインが必要。現状は「食事摂取基準」、「健康日本21」。 <p>今後の活動について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2019年10月に開催される「栄養とエイジング」国際会議での成果発表を目標。 ・関連業界への追加ヒアリング (例えば惣菜協会、大学生協) と中食に絞った調査の実施。 ・消費者の栄養摂取量 (エネルギー、タンパク質、食塩等) に対する各業界寄与率に関する文献情報調査の実施。
	ワーキンググループ3 (WG3) 健康な食事の伝え方開発と社会実装による効果検証	<p>会合 (2/5) ILSI Japan 会議室</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進捗報告会の発表資料の確認 ・活動の方針として、社会実装ありきではなく、健康な食事の持続的実現の視点、アプローチを探す。事例の収集から始める。
研究会全体		<p>○ 進捗報告会開催 2月19日 (月) 13:30~17:30、日本橋公会堂 4F ホール プログラム 開会挨拶 東北大学 教授・名誉教授 宮澤陽夫 WG1 健康な食事の概念構築 東京大学大学院医学系研究科社会予防疫学分野 教授 佐々木敏 WG2 外食・中食・給食の実態把握 石巻専修大学 理工学部 教授 坂田 隆 WG3 社会実装 人間総合科学大学大学院 人間総合科学研究科 教授 桑田有 招待講演 日本栄養改善学会の取組み 女子栄養大学 栄養学部 教授 石田裕美 パネルディスカッション WG活動を踏まえた今後の展開 モデレーター: ILSI Japan 理事長 安川拓次 パネリスト: 佐々木敏教授、坂田隆教授、桑田有教授 石田裕美教授、中村丁次神奈川県立保健福祉大学学長</p>

		<p>閉会挨拶 ILSI Japan 理事長 安川拓次</p> <p>○ 女子栄養大学訪問 (2/1) 桑田、宇津、太田 ・武見ゆかり教授から女子栄養大学の取組み (認証制度) の情報収集及び ILSI Japan の取組みの経過説明</p> <p>○ 女子栄養大学訪問 (2/6) 安川、太田 ・石田裕美教授表敬訪問 (講演依頼) と講演内容の打合せ</p>
C H P	Project PAN (Physical Activity and Nutrition)	<p>1/18, 2/1 自主サークルスカイテイクテン (押上オレンジルーム, 墨田区)</p> <p>1/23, 30 震災被災地支援: いしのまきテイクテン (南境第四仮設団地集会, 石巻市)</p> <p>1/25 自主サークルなでしこテイクテン (中ノ郷信用組合立花支店, 墨田区)</p> <p>2/5, 19 横浜市都筑区社会福祉協議会主催「食べて動いて健康づくり～TAKE10!～講座」(第1回, 第2回) (横浜市都筑地区センター)</p> <p>2/22～23 墨田区主催「栄養・口腔講演会」<1日目> 口腔ケアに関する講義 <2日目> 調理実習 (八広地域プラザ, 墨田区)</p> <p>2/28 きよらテイクテン担当者会議 (益田市シルバー駅前サロン, 島根県)</p>
	Project SWAN (Safe Water and Nutrition)	<p>1/9～13 地域ヘルスワーカーを対象とした紙芝居式教育教材の使い方に関する研修(省・郡・地域ヘルスワーカー延べ145名参加, ニンビン省, ベトナム)</p> <p>1/22～26 母親を対象とした料理教室(延べ170名参加, ニンビン省, ベトナム)</p>
	Project IDEA (Iron Deficiency Elimination Action)	特になし
	CHP 全体	特になし
国際協力委員会		<p>部会開催: 2月26日(月)</p> <p>議題:</p> <p>1) 各国法規制のリンクの有効性調査: 結果と今後の進め方 各国報告書に記載されたリンク先の有効性について昨年、委員で手分けして調査した結果を基に、今後どうするかを検討した。</p> <p>【現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● データベースの見た目は美しいが、情報が更新されていないため具体的な事業に係わる判断には使えないのが現状。 ● 事務局に外部から問い合わせがある際は、過去の調査時点での情報であり更新はしていないと回答している。 ● 委員より、PDF に埋め込まれたリンクを探し出しリンク先の有無を容易に確認できるフリーのプログラムがある、という情報提供があった。 <p>【課題・問題点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● フリープログラムで調査が可能なのは、リンク先の有無までである。リンク先があったとしても、①リンク先に直接目当ての情報がある場合、②リンク先からどこか別の箇所に目当ての情報がある場合の2つがあり、いずれにしても精査が必要となる。

	<ul style="list-style-type: none"> ● 委員で長時間かけてリンクを確認しても、目的とする情報にたどり着くかどうかはわからない。 ● 本当に情報が有効利用できるようにするための更新作業には専任が必要と思われるが、外注等のための予算は無い。 <p>【結論】 上記を鑑み、しばらくの間、本件に関する検討は凍結する。</p> <p>2) BeSeTo 会議で共有したい(してもらいたい)テーマについて: 今年の BeSeTo 会議は、台湾がホスト国となり 9 月に開催される予定である。1 月の ILSI 本部総会の中で各支部より紹介された各支部の活動内容をレビューしながら、新提案の「共有したいテーマ」の候補を議論し、大きく 4 つ候補を挙げた。この中から 3 月中に 1 つか 2 つに絞り込むべく、委員内でメール等を利用して議論していく予定である。 従来から継続しているトピック「法規関連の動向」に関しても、日本からの候補をいくつか挙げた。</p>
情報委員会	<ol style="list-style-type: none"> 1. 委員会開催 2 回 (1, 2 月) 2. ホームページ <ul style="list-style-type: none"> ・ 日常業務としての更新 (随時) 3. 「栄養学レビュー」誌 <ul style="list-style-type: none"> ・ 26 巻 2 号 (通巻 99 号) : 編集 (2/10 刊行) ・ 26 巻 3 号 (通巻 100 号) : 翻訳・監修・編集 (5/10 刊行予定) ・ 2/13 編集委員会開催 (通巻 101 号の採択論文・翻訳者候補決定)
編集部会	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「イルシー」誌 133 号発行 ・ 「イルシー」誌 134 号原稿査読・編集 ・ 「イルシー」誌 135-137 号原稿依頼検討

【講演会・シンポジウムご案内】

講演会名	案内	担当研究部会
第 9 回ライフサイエンスシンポジウム	<p>「健康長寿の延伸につなげる栄養科学と運動科学の融合—基礎研究から応用研究まで—」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 開催日：2018 年 7 月 26 日 (木) 9:00—17:45 ・ 場所：東京大学弥生講堂一条ホール 	栄養研究部会

【事務局からのお知らせ】

理事会	<p>○第 1 回理事会が、平成 30 年 2 月 6 日 (火) に開催された。</p> <p>決議事項 (総会議案)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 平成 29 年度活動報告書案 各研究会、研究部会ごとに活動計画の要点を説明した。質問なく承認された。 2. 平成 29 年決算報告書案 ILSI Japan の黒字の収支差額と ILSI Japan CHP の赤字の収支差額を連結すると、65 万円の黒字となった原因を説明した。質問なく承認された。 3. 平成 30 年度活動計画書案 各研究会、研究部会ごとに活動計画の要点を説明した。質問なく承認された。 4. 平成 30 年度収支予算書案
-----	---

	<p>ILSI Japan の収支が、東大寄付講座の終了等により赤字となること、ILSI Japan CHP の収支について企業サポートの縮小等に対処すべく、企業以外のドナーを見込んだ予算を組んだが、若干の赤字となることを説明した。数字に関して質問はなく、収支改善のための議論をし、承認された。</p> <p>5. 定款の変更・貸借対照表の公告方法追加</p> <p>NPO 法人の法律が改正され、毎年の貸借対照表をネットや新聞等で公開する必要性が生じたので、ILSI Japan として、当機構のホームページに掲載することと、それを定款に記載することの提案を説明した。意見なく、全員が承認した。</p> <p>報告</p> <p>支部総会報告事項</p> <p>① 本部総会報告</p> <p>今年は 40 周年の節目に当たり、スローガンである “Science Serving Society” を冠した ILSI Scientific Session が、全支部から募集・選考された研究成果発表で構成された。日本支部から成果発表をした。</p> <p>② 平成 30、31 年の次期役員候補</p> <p>木村修一理事が退任し、他の理事 14 名かつ監事 2 名は重任することを全理事が承認した。</p> <p>○第 2 回理事会が、2 月 25 日（日）に開催された。</p> <p>決議事項</p> <p>第 1 号議案 理事長選出</p> <p>安川拓次理事が推薦され、満場一致で承認され、本人は即時に受諾した。</p> <p>第 2 号議案 会長選出</p> <p>宮澤陽夫理事が選出され、本人は受諾した。</p> <p>第 3 号議案 副理事長選出</p> <p>桑田有理事、木村毅理事、坂田隆理事、谷口茂理事が選出され、受諾した。</p> <p>第 4 号議案 理事長代理人の選出</p> <p>理事長に事故があるとき、または理事長が欠けたときに職務を代行する副理事長として、木村毅副理事長が選出され、受諾した。</p>
総会	<p>平成 30 年通常総会が 2 月 19 日（水）10 時より日本橋公会堂にて開催された。</p> <p>審議事項</p> <p>第 1 号議案 平成 29 年度事業活動報告書案が承認された。</p> <p>第 2 号議案 平成 29 年度決算報告書案が承認された。</p> <p>第 3 号議案 平成 30 年度事業活動計画書案が承認された。</p> <p>第 4 号議案 平成 30 年度収支予算書案が承認された。</p> <p>第 5 号議案 定款変更 貸借対照表の公告方法追加の件が承認された。</p> <p>5 つの議案について質問はなかった。</p> <p>報告事項</p> <p>1. 本部総会報告</p> <p>2018 年の ILSI 本部総会の概要を報告。今年は ILSI40 周年の節目に当たり、スローガンである “Science Serving Society” を冠した ILSI Scientific Session が、全支部から選考され、研究成果として発</p>

	<p>表された。ILSI Japan からは「食品微生物部会」が、MALDI-TOF MS の発表を行った。他に、ガバナンス体制変革のための決議が理事会でなされた。またアジア支部会議を開催し、情報共有と、東京開催の ICN (国際栄養学会議) 2021 年においてアジア支部共同のシンポジウム開催を提案した(詳細は、ILSI ウェブサイトを参照下さい)。 http://ilsj.org/event/2018-ilsj-annual-meeting/</p> <p>2. 平成 30、31 年役員紹介 木村修一理事の退任と他の理事 14 名と監事 2 名の重任を紹介した。</p>
事務局	事務局次長として貢献された太田裕見氏が、2 月末で退職。